

備前市事務事業評価シート

(平24年度事業)

事業の概要				
事業開始年度	昭和46年度以前			根拠法令・例規等
大項目 基本目標	04	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律	
中項目 基本施策	01	豊かな食を支えるまちづくり	問 担当課(室)	農林水産課
小項目 施策	02	林業	合先 職・氏名	係長 中畑 喜久弥
事務事業名	03	猟政事業	電話	0869-64-1836
			このシート作成に要した時間	1.5 時間

事業の目的		Plan
対象 (誰・何に対して)	備前市内で農作物等を栽培している農家等	
目的 (何のために)	鳥獣による農林水産物及び人畜への被害の防止	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	有害鳥獣の数を適正な駆除により、バランスのとれた数に保つことにより、農作物被害の減少を図る	

事業の実績			Do
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	有害鳥獣捕獲柵設置補助金	有害鳥獣捕獲柵制作に係る原材料費の補助(県1/3、市1/3)	
	有害鳥獣駆除事業補助金	有害鳥獣駆除班に対する活動補助等	
	有害鳥獣駆除事業	駆除班等に狩猟期間以外の捕獲許可を行い、有害鳥獣の駆除を推進する	
	猟政事務事業	猟友会の事務局等事務	

決算額	事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	
	直接事業費	千円		2,083	2,590	5,324	
	必要人員費	人件費	千円	0.70人	5,817	0.66人	6,671
	事業費			7,900	9,261	14,721	
	国庫支出金			546	1,094	1,146	
	受益者負担			3	3	3	
財源	繰入金	千円					
	市債						
	その他( )						
	一般財源		7,351	8,164	13,572		
	受益者負担比率	%	0.0%	0.0%	0.0%		
結果指標	結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	
	結果指標量		説明	鳥獣捕獲数			
	対前年比	%		616	507	575	
	活動コスト	円		-	82.3%	113.4%	
	単位当たりコスト			997,000	1,498,000	2,255,000	

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストを留意しながら効率性を評価

事業の成果						
成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値	
	目標値(A)					
	実績値(B)	424	394	481	到達目標値	
鹿・猪の駆除頭数		達成率(B/A)				
成果指標設定の考え方・式や説明						
駆除班から報告された鹿・猪の駆除数						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い  B
	市民ニーズ	市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い  B
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い  B

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しな

進行年度(H25年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	有害鳥獣による農作物被害等は継続するものと考えられるため、防護柵・駆除の両面から事業を引き続き実施していく方針						

総合評価		
鳥獣の保護と有害鳥獣による農作物の被害防止という相反する観点から事業を進めていかなければならないが、イノシシ、ニホンジカ等の数が適正限度数を超えている現状からは、この事業の継続は必要であり、被害状況によっては拡大していかなければならないと考える。	総合評価	B

平成26年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	有害鳥獣による農作物被害等は継続するものと考えられるため、防護柵・駆除の両面から事業を引き続き実施していく方針						

Action